

刊行にあたって

20数年前、私は在宅、施設、病院等の患者さんの口腔を初めて診て、衝撃を受けました。患者さんの口腔はカラカラに乾燥し、粘膜が痂皮様になっており、食物残渣は腐敗して悪臭を放っていました。また、咽頭や梨状窩にたまった痰を喀出できず、ゴロゴロと音をたてて苦しそうに呼吸していました。このような苦しみから患者さんを解放してあげたいと思い、口腔ケアを広めようと試みました。

介護、看護、医療、リハビリテーションの現場は激務です。多忙な仕事のなかに、どのようにしたら口腔ケアを導入してもらえるのかを長年取り組んで考え続けました。そして、耳掃除にヒントを得て考えついたのが、「くるリーナブラシ」(オーラルケア)です。今から12年前でした。誰でも簡単に、負担なく口腔ケアができるように、病人や障害者(児)、高齢者にも使ってもらえるように開発しました。

「くるリーナブラシ」は開発当初から切望したように、歯科医療関係者以外の職種の方が多重業務のなかで時間をかけずに口腔ケアができ、同時に食べられる口づくりができるように製品化しました。「くるリー

ナブラシ」を作り、食べるための入口である口腔のケアの重要性和ニーズが在宅や施設、病院等で高まり、あの方を、この方を助けてあげたいという思いが更に募りました。そのため、さまざまな病態の方に合わせて対応しやすいように、「くるリーナブラシ」は第1号から8号まで吸引ブラシも含めてシリーズとして製品化し、現在に至っています。



困っている方々には100人100様の原因、疾患、障害があります。本書は、今まで携わった多くの患者さんの筋肉を撫でたり動かしたりして触れたところからヒントを得、工夫を凝らしてイラストと写真で構成・制作したものです。

使い方は、くるリーナブラシシリーズに保湿剤を用い、口腔ケアを行いながら唾液腺を刺激して、漿液性のサラサラした唾液を出します。こびりついた痰を保湿剤と漿液性の唾液でふやかし、それをくるリーナブラシシリーズの毛先に引っかけて除去します。保湿剤とよい唾液を味方につけ、自己喀出という自浄作用を



導き出す口腔ケアで、全身の健康状態も目に見えてよくなっていきます。

患者さんの生命にかかわる仕事をしている現場では、くるり

ーナブラシシリーズによる口腔ケアと口腔リハビリで、「言葉が出た」、「水が飲めた」、「食べ物を食べられた」、「笑顔が出た」、「呼吸が楽になった」等々の変化が起こり、とても大きな達成感を得られるようです。口腔ケアと口腔リハビリで、本人も周りも元気になります。

国は、急性期病院から家庭や施設という在宅療養への切り替えを推し進めています。そのため、口腔ケア不足で誤嚥性肺炎を引き起こし、かつ心身にリスクを負い、入退院を繰り返して重症化する患者さんが増えています。急性期病院の退院時に、ご家族や知人、施設のスタッフに本書をお勧めいただき、取り組んでいただければ幸いです。

本書の目次1「口腔リハビリ 自分でやってみよう&一緒にやってみよう」は、ご自分でできる方にはイラストを見ながら介護等のスタッフや家族と一緒にやって

もらい、もしできなかつたら手を貸してあげてください。目次2「口腔ケア くるりーナブラシシリーズの使用法」では、ご自分でできない方の口腔清掃と同時に口腔の動きが出るようになる口腔ケア法をイラストにしました。目次3「口腔リハビリ&口腔ケア 事例編」は、応用例です。

本書を用い、一人でも多くの方においしい食事をしていただいで最期まで過ごせますようお願いしてやみません。

本書の刊行にあたって、イラストを描いてくださった伊富貴庸子さん、歯科衛生士の小林知子さん、その他のご協力いただきました多くの方に感謝申し上げます。

2010年2月

黒岩恭子のプロフィール

1944年 和歌山県生まれ

1964年 日本女子衛生短期大学卒業

1970年 神奈川歯科大学卒業

1975年 神奈川県茅ヶ崎市にて開業

村田歯科医院院長